

第2回フレックスコミックス異世界マンガ作画大賞 課題作品2 (男子向け)

◆概要

ダンジョンやモンスターの概念がある、中世ヨーロッパ風の異世界が舞台。
パーティーの女性に虐げられた主人公・リビドは、何にでも変身できるチートスキル【千変万化】を手に、自分を軽んじた女性への復讐を始める。

◆世界観

ダンジョンやモンスターの概念がある、中世ヨーロッパ風の異世界。
女性だけが女神の加護を受けるのが特徴で、男性は男というだけで差別され、虐げられて暮らしている。
男性が冒険者パーティーに加入することも極稀にあるが、完全に女性の雑用として働くことになる。

◆あらすじ

冒険者リビドは、パーティーの女性たちに見捨てられ、ダンジョンに一人取り残されてしまう。

「童貞のまま死んでたまるか！」 死を間際にした彼の魂の叫びに呼応するように、眩い光が彼の身体をつつみ――生まれ変わったリビドは何にでも変身できるチートスキル【千変万化】を手にしていた。

最強のスキルと共に、自分を軽んじた女性達に復讐せよ！
女性に支配された世界で今、男の尊厳を取り戻す戦いが始まる！

◆キャラクター設定（下記3名のキャラクターデザインを作成して下さい）

○リビド

性別：男 年齢：17歳

身長：175センチ 体型:やや筋肉質 髪型：黒髪短髪

職業：冒険者（女性中心のパーティーの雑用）

女性に支配された世界で性欲を失わず、女性とキャッキャする日を夢見ている。

本来は前向きな性格の努力家だが、パーティーに裏切られてからは強い復讐心を持っている。

○パーティーの女性リーダー

性別：女 年齢：22歳

身長：168センチ 容姿:グラマーな美女 髪型：赤髪ロング

職業：冒険者（リビドが入っているパーティーのリーダー）

若くしてリーダーを務める優秀な冒険者。優秀ゆえに性格は高飛車。

特にリビドへの当たりが強く見下しているが、それはこの世界の女性ほとんどに共通している性格である。

○聖女

性別：女 年齢：16歳

身長：153センチ 容姿:小柄な美少女 髪型：金髪ショート

職業：聖女

この世界の女神に祈りを捧げる聖女。

神に仕える清廉な少女だが、心の奥底には男性への欲求が隠れている。

後に本当の欲望をリビドに見破られ、あられもない姿をさらす。

◆課題小説

(以下から一部シーンを抜粋して、マンガ 4-8P 分の完成原稿を仕上げてください)

※ダンジョン内、リビドを囮にモンスターから逃げ切ったパーティーの女性メンバーの会話からスタート。

リビドを囮にして逃げた女たち。

無事に安全な場所まで非難し、ダンジョン内を歩いている。

「ここまで来れば安全ね」

「なんとかあったわね」

「連れてきてよかったわ。あの男、名前も忘れちゃったけど」

「ふふっ、最後の最後に役に立ったわ」

女たちは口を揃えてリビドのことを笑う。

悪いとは一切思っていない。

「——無事みたいでよかったよ」

そんな彼女たちの眼前に、囮にしたはずのリビドが登場する。

女たちは驚愕する。

「囮になった甲斐がある」

「——！ どうして……なんで？」

「生きてるのかって？」

ニコリと笑うリビドに、若干焦りをみせる女リーダー。

リビドは続ける。

「酷いじゃないですか。冒険者ギルドの規定で、裏切りや仲間同士の争いは固く禁じられているはずですよ。バレたら罰則対象だ」

女リーダーは焦りながらも、開き直って笑みを浮かべる。

「ふっ、そうね？ だったら簡単じゃない。ここであんたを殺せば、誰にもバレる心配はないのよ！」

女たちは武器をとる。

リーダーの両脇、右側が魔法使いで、魔法陣を展開して炎を発射。

左側は弓使いで、矢を乱射する。

リビドに直撃し爆発音が響く。

「運よく生き残れたのに残念だったわ……ね……」

煙の中から無傷のリビドが姿を見せる。

攻撃を放った二人が驚愕。

「嘘！」

「確かに当たったのに！」

「無理だよ。今の俺は誰にも殺せない」

「っ……調子に乗ってんじゃないわよ！」

リーダーが剣を抜き、リビドの腹に剣を刺す。

しかし血は流れず、リビドにダメージはない。

ナレーション入れながら、リビドは刺した女をゲスな笑みで見下ろす。

【彼は生まれ変わった】

「じゃあ、今度は俺の番だ」

【全く新しいモンスターとして】

女は恐怖し、剣をリビドに刺したまま逃走しようとする。

リビドは右手を逃げようとした女にかざす。

「――『千変万化(せんべんぼんか)』」

リビドの腕が無数の触手の変化。

あっという間に逃走した女を拘束、ついでに残り二人も拘束し、触手で絡めとる。

「な、何よこれ！」

「離しなさい！」

「――どうして？」

触手に絡まれた女たちは、それぞれに服の中をまさぐられ、甘い声を出し始める。

リビドは腹に刺さった剣を抜いて地面に捨てる。

「気持ちよさそうにしてるじゃないか」

「そんな、ことっ！」

「素直になればいい」

「んん、ああ！ ダメ……」

もう普通に触手は女を犯しています。

まだ抵抗しようとする女。

「こんな……男、なんかにい……」

「——イケ」

「い、嫌……ああああああああああああああんんんん！」

女たちは絶頂し、潮を吹く。

自分の職種の中で果てた女たちを見ながら、リビドは歓喜する。

「クク……ハッハハハハハハハハハハハハハ！ ついに！ ついに来たぞ俺の時代！ いや、男の時代が！」

笑い終えたリビドが、触手で女リーダーを自分の眼前に近寄らせ、触手化していないほうの手で、おっぱいを鷲掴む。

「世の童貞たち、刮目してみよ！ 今から俺が……俺たちが証明する！ この世界に男が必要だってことをなあ！！」